

「中国四川省彝族調査」



8月に、彝族の植物利用調査に行ってきました。調査地は成都から電車で6時間ほど南に行った甘洛県。

まず、モロコシ（高粱）の利用として、ガンガン酒（棹棹酒）の材料にすることがプレ調査によりわかっていたため、モロコシの耕作状況を現地にて確認することから始めました。雑穀は全般には甘洛県でも、かなり標高の高いところで栽培されているとのことで、ガンガン酒の材料として栽培をしているモロコシ以外では、雑穀の栽培されているものは見ることができませんでした。



けれども、聞き取りでは、モロコシ、アワ、エンバクを中心にたくさんのデータが得られ、実際に見ることができた作物では、トウモロコシの栽培や利用が非常にたくさんなされており、とても興味ひかれるものがありました。ソバの麺料理も、面白いものを見ることができました。早く、調査結果をまとめて、公開できるように努力したいと考えています。



画像は、モロコシ耕作地、都市部家庭でのイ族料理、山村部でのトウモロコシ料理づくり、モロコシのホウキです。

今回の調査は、通訳兼現地案内をしてくださった李俊氏なくては実現しなかったもので、現地では地元の方々にお世話になりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

（文責：イムラヒロエ）

